



●麻生区の概要

麻生区は、川崎市の北部に位置し、昭和57(1982)年に多摩区から分区して誕生しました。

麻生区は、平成10(1998)年に都市景観大賞にも選ばれた新百合ヶ丘駅を中心に商業・文化などの都市機能が集積し、川崎市の広域拠点として発展しています。

新百合ヶ丘駅周辺には、川崎市アートセンターや昭和音楽大学、日本映画大学などの芸術・文化施設があり、芸術祭や映画祭、音楽祭などが開催されるなど、芸術・文化のまちづくりが進められています。

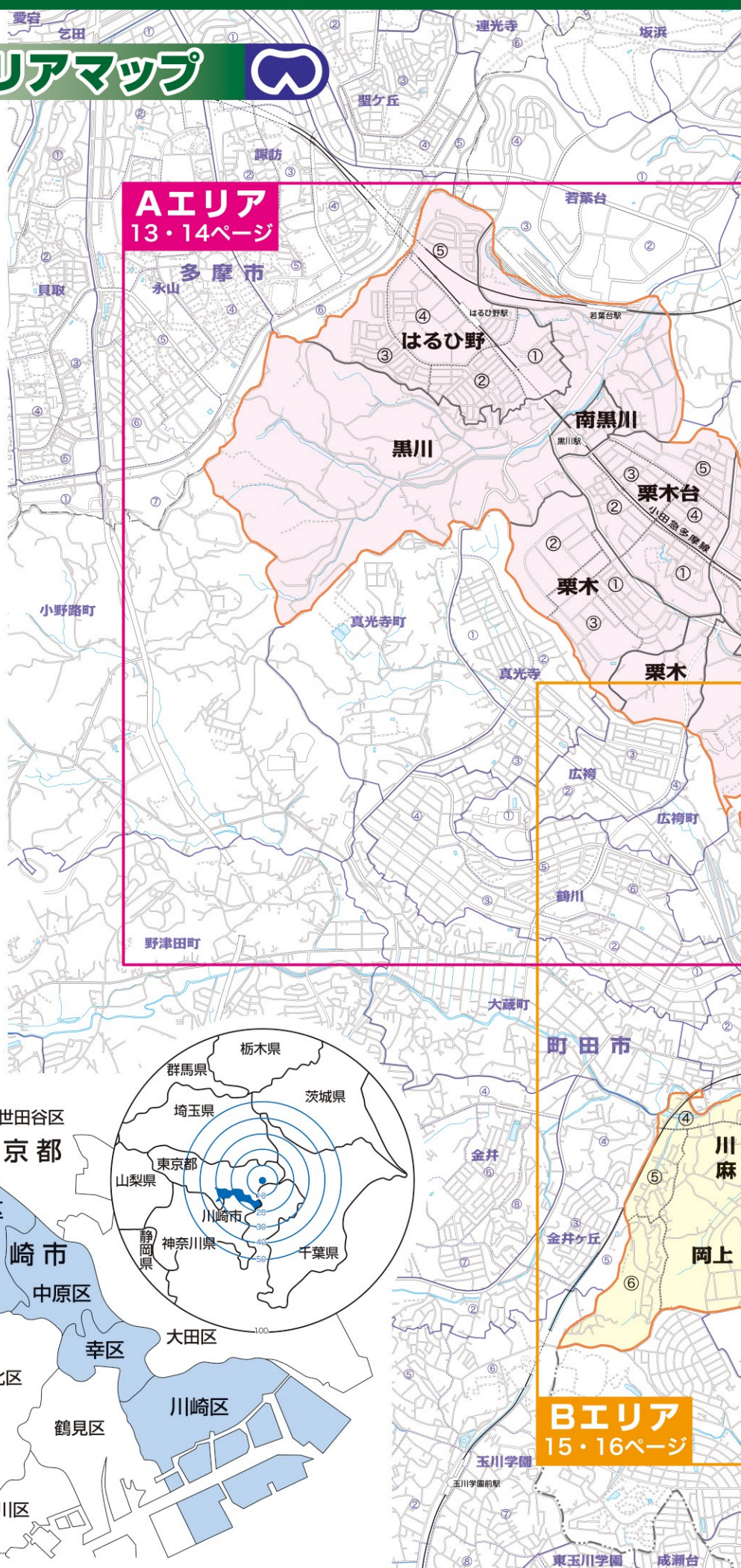
また、小田急線柿生駅から栗平駅に至る片平川沿いの「スポーツ・健康ロード」や麻生スポーツセンターなど、住民が積極的にスポーツに親しめる環境もあります。

一方、多摩丘陵の一角にある麻生区は独立性の高い自然環境を有しており農業振興地域の黒川、岡上、早野地区は「緑と農の3大拠点」として心とむ里山の原風景も残され、栗木・南黒川地区には、先進技術産業を集積した研究開発都市としてのマイコンシティがあります。

区内では、どんど焼き、だるま市、さくら祭り、あさお区民まつりなどの文化・伝統行事が催され、多くの区民が訪れ賑わっています。

また、麻生区では、柿生の地名の由来ともなり、平成24年度に区の木に制定された禅寺丸柿を活用した地域づくりに取り組んでおり、禅寺丸柿の日として記念日登録された10月21日を中心に様々なイベントを開催しています。

このように、都市化・商業化した駅周辺地域と多摩丘陵の豊かな自然や昔から受け継がれてきた伝統・文化が共存したまち「ふるさと麻生」を感じられるまちづくりがすすめられています。



Aエリア
13・14ページ

Bエリア
15・16ページ

